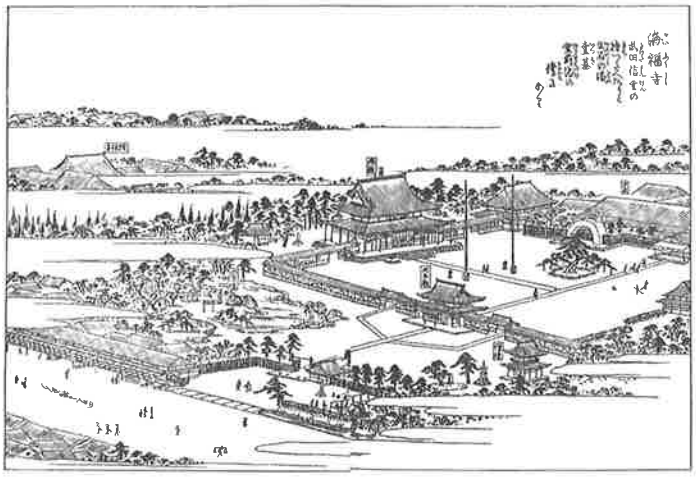
資料館ノート　第59号　　平成17年9月16日発行

江東の名所　③

名所としての深川寺町

江東区深川江戸資料館



海福寺『江戸名所図会』

『江戸名所図会』の深川寺町

冒頭の絵は深川寺町にある海福寺です。『江戸名所図会』の挿絵として描かれたもので、斜め上方から境内を一望した構図になっています。当寺は黄檗宗の寺院で、万治元年(1658)深川に開創されました。いわゆる「七軒寺町」と呼ばれる深川寺町形成初期と同時期の一寺院です。絵中には、仏殿を中心に、天王殿、鐘楼、九重塔などの文字が見えています。本文中では、これらの事物について詳細な説明があり境内を案内しています。

『江戸名所図会』は、天保7年(1836)に出版された代表的な江戸の名所案内です。深川寺町からは9ヵ寺が紹介されています。各寺の記述は、位置、宗派、開基、本尊に関すること、宝物や年中行事など、寺院の概略と見どころと思われるような事柄が取り上げられる傾向にあるようです。一部をあげてみます。

「陽岳寺」　恵心僧都作の本尊、妙作の釈迦如来像、二代目英一蝶の墓
「浄心寺」　祖師堂、七面堂、加藤清正女の墓、三沢局との関係
「霊巌寺」　六地蔵、阿弥陀経千部読誦修行
「本誓寺」　唐仏の本尊、霊験あらたかな地蔵石尊像、鴻臚館
「宜雲寺」　英一蝶の画、一蝶寺と称す
「法禅寺」　海中出現の霊像、極楽寺
「雲光院」　扁額、阿茶局が本願
「霊雲院」　開基が新しいので新寺と称す、挿絵あり

9ヵ寺をどのような基準で選択したのかは詳らかではありませんが、当時、こうした寺院もしくは寺町が名所として意識されていたことは確かでしょう。寺院が名所とされるのは、江戸時代の庶民の旅が信仰的要素を含む物見遊山であることを考えれば、当然とも言えますが、ここでは、寺院や寺町が名所とされた要因について考えてみたいと思います。

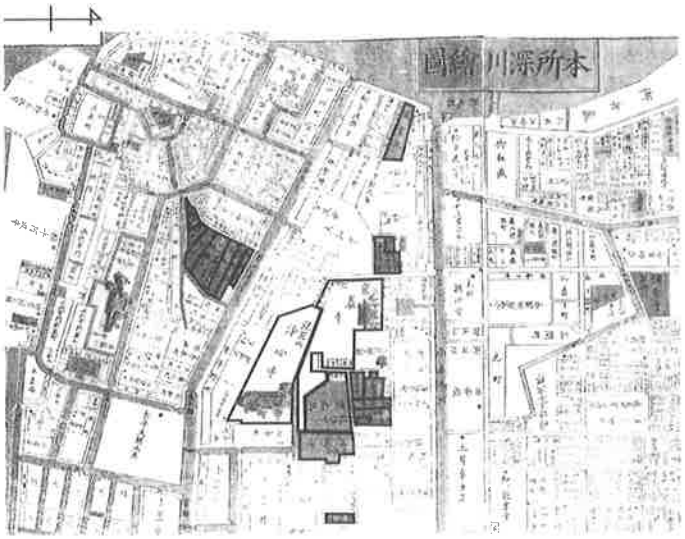
深川寺町の形成

深川の寺町はどのように形成されてきたのでしょうか。まずはその歴史をおさえておきたいと思います。深川寺町は、江東区の西部、深川地区の中央に位置しており、現在の地名では白河・三好・平野・清澄・深川あたりになります。江戸時代よりこの辺りに寺院が多かったことから俗称として呼ばれるようになりました。寛永6年(1629)に深川猟師町が形成されるのと前後して、仙台堀川南岸、現在の清澄通りに面した深川2丁目付近に七軒寺町が成立しました(第1期)。

その後、明暦の大火後(1657年)、幕府の政策もあり寺院は都市の周縁部へと移転を余儀なくされ、小名木川から仙台堀川の間に霊巌寺・雲光院など浄土宗系の寺院や日蓮宗の浄心寺といった有力寺院の移転・創建が続きました(第2期)。

表　深川に移転・創建された寺院

	寺院名（宗派）	開創年	深川移転年
第1期	心行寺（浄土）	元和2（1616）	寛永10（1633）
	永代寺（真言）	寛永元（1624）	
	増林寺（曹洞）	寛永5（1628）	
	玄信寺（浄土）	寛永6（1629）	
	正源寺（浄土）	寛永6（1629）	
	正覚寺（浄土）	寛永6（1629）	
	万徳院（真言）	寛永6（1629）	寛永20（1643）
	法乗院（真言）	寛永6（1629）	
	恵然寺（臨済）	寛永10（1633）	寛文元（1661）
	西念寺（浄土真）	寛永12（1635）	正保4（1647）
	陽岳寺（臨済）	寛永14（1637）	
	清光寺（真言）	寛永年中	
	海福寺（黄檗）	万治元（1658）	
	長慶寺（曹洞）	万治3（1660）	
	因速寺（浄土真）	天和年中（1681）～	不詳
	瑞雲寺（曹洞）	不詳	元文4（1739）
	中央寺（曹洞）	不詳	
第2期	法禅寺（浄土）	至徳3（1386）	天和3（1683）
	本誓寺（浄土）	文亀元（1501）	天和2（1682）
	雲光院（浄土）	慶長16（1611）	天和2（1682）
	霊巌寺（浄土）	寛永元（1624）	万治元（1658）
	浄心寺（日蓮）	万治元（1658）	
	霊雲院（曹洞）	不詳	宝暦8（1758）
	宜雲寺（臨済）	元禄5（1692）	
	善徳寺（曹洞）	元禄5（1692）	
	観音寺（黄檗）	元禄8（1695）	元文4（1739）
	広済寺（黄檗）	正徳2（1712）	
	万祥寺（黄檗）	正徳2（1712）	
	真光寺（黄檗）	正徳2（1712）	
	泰耀寺（黄檗）	正徳2（1712）	
	臨川寺（臨済）	正徳2（1712）	



「本所深川絵図」太線枠が寺院

その結果として、深川には寺町とばれる独自の空間が成立することとなります。『江戸名所図会』の時代にはちょうど「本所深川絵図」のような寺院の密集する地域になっていました。明暦の大火で移転してきた寺院の総坪数は６万坪にも達したというのですから相当なものです。大寺院で構成され、多く僧侶が行き交う街並みは、やはり一種独特な趣があったことと思われます。因みに、これらの寺院は、将軍家や大名家との関係が深く、一般の檀家は持たない無檀家の寺院でした。一般庶民の檀家も移転前の地域との係わりの方が密で、地元深川との関係は希薄でした。
江戸時代中期以降、こうした大寺院が並ぶ宗教的空間にも、多くの庶民が名所として訪れるようになるのです。

寺院の名所化

寺院、寺町が不特定多数の人々の集まるような名所となった背景は、どのあたりにあったのでしょうか。

一つには、寺院側の事情があります。幕府から助成を受けていたものの十分ではなく、自立した経営が求められていたという現実があります。門前を賑わし、多くの参詣客を集めることが必要だったのです。そのため、出開帳をはじめとする集客性のある宗教行事を積極的に行なったわけです。

一方、庶民の方ではいわゆる「行動文化」と呼ばれる名所巡りなどの文化活動が広がっていました。江戸市中や近郊の寺社巡りは、日帰りの行楽地として最適でした。

そして、物見遊山・行楽が信仰的要素を多く含んでいた近世は、寺院のイベント参加や宝物見物などが名所化するのは必然だったと言えます。

つまり、寺院側の働きかけ、庶民の文化活動の高まりの相互作用のなかで、また、寺町のもつ独特な雰囲気もあり、寺町のような空間も名所として活性化していったということになります。

霊巌寺境内の江戸六地蔵

名所としての深川寺町

寺院で行なわれていた年中行事について、深川寺町に限定し、『東都歳事記』から抜粋してみました。

1/16	閻魔参り【法乗院、霊巌寺開善院】
	地獄変相開帳【法禅寺】
1/25	浄土宗開祖圓光の忌日法会【霊巌寺】
3/9~18	法華経千部修行【浄心寺】
3/10~	四国八十八ヶ所巡礼 (74 番目)【法乗院 】
3/19~25	圓光の忌日法会【本誓寺】
3/28	開帳【浄心寺】
7/16	施餓鬼【海福寺】
9/19	七面宮祭礼 (開帳)【浄心寺】
10/6~15	浄土宗寺院十日十夜法会【本誓寺】
10/12	法華宗御影供【浄心寺】
10/14	十夜法会【霊巌寺】
冬至	星祭 (開帳)【浄心寺】

この他、毎月の行事として、浄心寺では妙見参り・祖師 (日蓮) 参り・上行菩薩参詣・日朝上人参詣、本誓寺では地蔵参り、法乗院は不動参りがありました。
現在、花祭りや川施餓鬼、お彼岸などの時期になると寺町界隈は活気づきます。江戸時代も、これらの行事には多くの人々が参詣したものと思われます。例えば、『江戸名所図会』には、霊巌寺「阿弥陀経千部読誦修行あるがゆゑに道俗群詣せり」、本誓寺「地蔵尊石像 ... 享保のはじめ霊験ありとて、おほいに群集せしとなり」とあります。

霊巌寺などは、江戸三十三所観音参や江戸六地蔵参りといった巡礼コースにも含まれていました。江戸六地蔵は、「東都六地蔵巡礼記」「六地蔵まふでの記」の巡礼記が残されていることからも、盛んに行なわれたことが推測できます。また、江戸時代を通して、特に浄心寺や永代寺では出開帳が頻繁に行なわれ、多くの人々が参集しました。

深川寺町の魅力

江戸時代、神仏のご利益や珍しい由来のご本尊、宝物、あるいは説教や大寺院の境内など、お寺ならではの魅力を求めて、人々は宗教的行事に参詣しました。これだけでも名所として賑わう要素は十分と言えますが、さらに、深川は、江戸市街地にはみられない水辺の自然景観、門前仲町界隈での料理茶屋・岡場所、舟での道中など魅力満載の地域でした。深川寺町は、これらを堪能して日帰り行楽を楽しむには格好の地でした。